

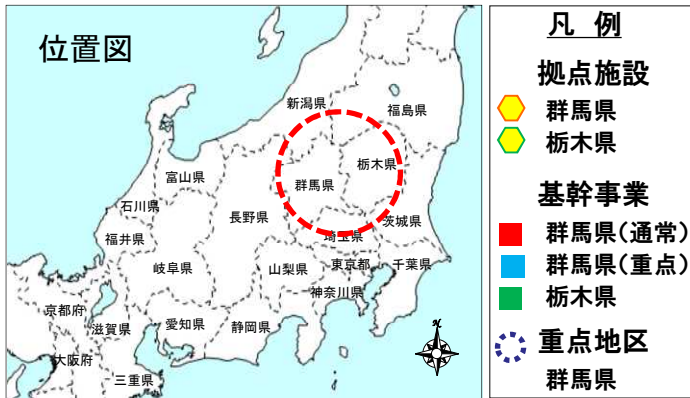
# 栃木・群馬における魅力的な資源を活かした広域的観光活性化計画

## 計画の概要

栃木群馬交流圏域(栃木県日光地域、栃木県及び群馬県にまたがる両毛地域、群馬県中毛・利根沼田地域)においては、「日光・会津・上州歴史街道対流圏の強化プロジェクト」や「北関東三県広域観光推進協議会による連携事業」に取り組み、観光振興による交流人口の増加を図っている。日光・会津・上州歴史街道対流圏では、歴史的建造物や豊かな自然環境、温泉が集積しており、これらの国際的な観光コンテンツを活用した広域観光周遊ルート of 創出を目的とするプロジェクトである。

本計画では栃木県と群馬県の広域観光周遊ルートの整備を行い、高規格道路(関越・北関東・東北・日光宇都宮)等で形成される広域交通ネットワークによる周遊観光を促進させ観光集客に向けた更なる観光活性化を図る。

また、重点地区「群馬コンベンションセンター周辺地区」におけるアクセス道路整備を行うことにより、計画区域の観光活性化を図る。



計画期間 平成30年度～平成34年度

### 1. 計画の目標

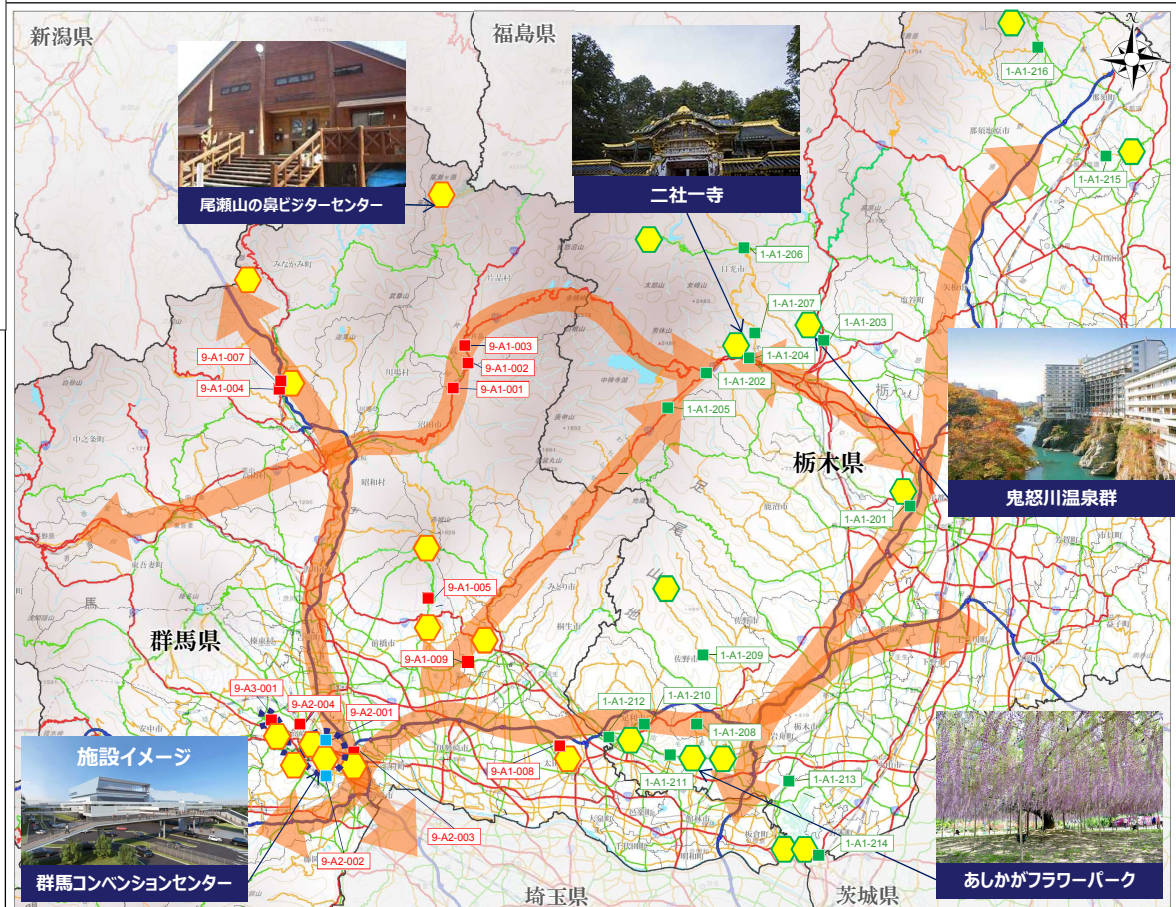
栃木群馬両県が連携することにより、圏域を超えた広域的な観光振興を促進させ、地域活性化を図る。

### 2. 目標を定量化する主な指標

- ・計画地区内の観光入込客数  
1,138万人(H28)⇒1,745万人(H34末):53.3%増
- ・重点計画の拠点施設の観光入込客数  
0人(H28)⇒96万人(H34末):100%増

### 3. 主な事業

観光拠点へのアクセス向上のための道路整備



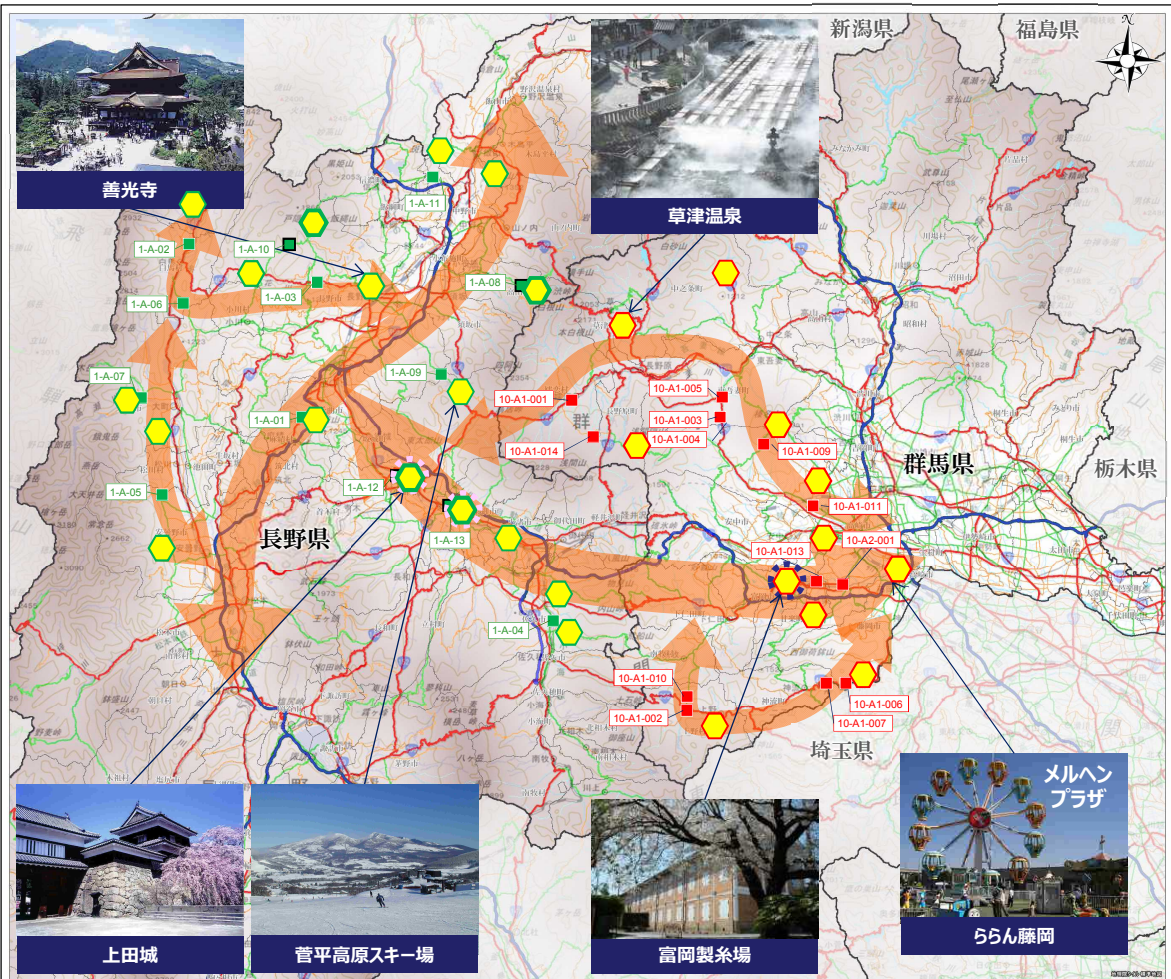
# 群馬・長野における豊かな環境を活かした多様な広域周遊観光計画

## 計画の概要

群馬県と長野県においては、広域交通ネットワークが上信越自動車道、長野自動車道、北陸新幹線、日本ロマンチック街道等で形成され、この周辺地域では善光寺や富岡製糸場など国内有数の観光地のほか、豊かな自然環境や温泉、歴史的資源などの観光資源を有し、ヘルスツーリズム、エコツーリズム、スポーツツーリズムなどの多様な観光コンテンツが提供されている。これらの広域交通ネットワークと多様な観光コンテンツを生かし、周遊観光の推進や、都市部と中山間村との交流を支援する社会資本整備を進め、地域活性化を図る。また、拠点施設整備と連携したインフラ整備を進めることにより、広域的な観光の促進を図る。



- 凡例
- 拠点施設
  - 群馬県
  - 長野県
  - 長野県(重点)
  - 基幹事業
  - 群馬県
  - 長野県
  - 長野県(重点)
  - 重点地区
  - 群馬県
  - 長野県



計画期間 平成30年度～平成34年度

### 1. 計画の目標

群馬長野両県が連携することにより、圏域を超えた広域的な観光振興を促進させ、地域活性化を図る。

### 2. 目標を定量化する主な指標

- ・計画地区内の観光客数  
2,211万人(H28)⇒2,335万人(H34末):5.6%増
- ・重点対象の拠点施設における観光客数  
353万人(H28)⇒374万人(H34末):5.9%増

### 3. 主な事業

観光拠点へのアクセス向上のための道路整備

# 山陰海岸ジオパーク圏域3府県周遊観光活性化計画



## 計画のポイント

鳥取県・兵庫県・京都府の3府県の日本海沿岸部をエリアとする、世界ジオパークネットワークに加盟の“山陰海岸ジオパーク”圏域では、地質遺産をはじめとした多様な地域資源を保全し、教育・観光・地域産業に活用することで、地域活性化を図る活動が行われている。これらの活動に合わせ、拠点施設間のアクセス強化や拠点施設周辺の整備を推進し、広く圏域外からの来訪者の増加を図ることにより、広域的な地域活性化を目指す。

- 計画期間 平成30年度～平成34年度**
- 2. 目標を定量化する主な指標**  
 (共通目標) 山陰海岸ジオパークエリア観光入込客数の増加  
 H34年度5%増(H26～28年度平均年間観光客数)  
 (重点目標) 重点対象の拠点施設における観光入込客数の増加  
 H34年度5%増(H26～28年度平均年間観光客数)
- 3. 主な事業**  
 ・観光拠点へのアクセスを高めるための道路整備  
 ・拠点施設の魅力向上を図る河川環境整備

**ジオパークとは？**  
 「ジオ(geo)」は、地球や大地という意味の接頭語で、「ジオパーク」とは、科学的に見て特別に重要で貴重な、あるいは美しい地質遺産を含む一種の自然公園です。



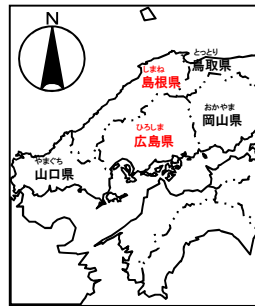
- 拠点施設
- 重点地区
- 基幹事業(重点)
- 基幹事業(通常)
- ジオパークエリア
- 且つ観光促進エリア
- 半島振興対策実施地域

- 整備済区間
- 整備中区間
- ○ ○ 計画中区間
- 一般国道

# 広島・島根における尾道松江線を軸とした広域観光活性化計画

## 計画のポイント

尾道松江線の全線開通により、尾道から松江間は日帰りの旅行圏域になったことに加え無料であることから、沿線の多様な観光資源に気軽に訪れることが可能となり、沿線地域の総観光客数が5年間で約1,000万人増加している。こうしたなか、両県では広島県・島根県観光連携協議会を設立し、官民連携により様々な観光キャンペーンを展開し、積極的に観光客誘致に取り組んでいる。カラーコンテンツである神話の象徴「出雲大社」や世界No.1の「しまなみサイクリングロード」のブランド力と無料の高速道路の強みを最大限活用し、高速IC等の交通拠点から観光地、さらには観光地間のアクセスを向上させることで観光周遊を一層促進し、圏域並びに出雲大社における総観光客数の増加による広域的な地域活性化を図る。



①出雲大社(出雲市)



②松江城(松江市)



⑤須佐神社(出雲市)



③玉造温泉(松江市)



④石見銀山(大田市)



⑥帝釈峡(庄原市)



⑦神楽体験(安芸高田市)



⑧サンセットビーチ(尾道市)



しまなみサイクリングロード(尾道市)

- 拠点施設
- 重点地区
- 基幹事業(通常)
- 基幹事業(重点)
- 観光活性化エリア
- 圏外からの来訪ルート

計画期間 平成30年度～平成34年度

### 1 計画の目標

#### 圏域※1における総観光客数

※1:三原市、尾道市、三次市、庄原市、安芸高田市、世羅町、松江市、出雲市、大田市、安来市、雲南市、奥出雲町、飯南町、川本町、美郷町、邑南町

### 2 目標を定量化する主な指標

- ・圏域※1における総観光客数を7.4%増加  
4,982万人(H28) ⇒ 5,352万人(H34末)
- ・出雲大社における総観光客数を3.8%増加(島根県)  
605.8万人(H28) ⇒ 629.0万人(H34末)
- ・重点対象の拠点施設における県外からの総観光客数を10.6%増加(広島県)  
469.1万人(H28) ⇒ 519.1万人(H34末)

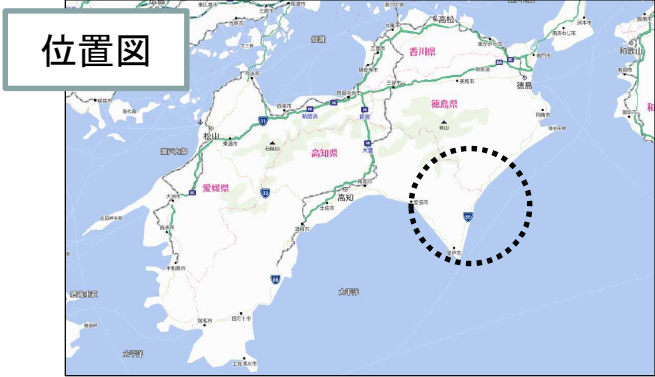
### 3 主な事業

- ・拠点施設へのアクセス時間を短縮させ、周遊効率性を高める道路事業
- ・拠点施設へのアクセス時の快適性を高める道路事業

世界初の営業運行となるDMVを軸とした観光による徳島県南部及び高知県東部地域活性化計画

計画の概要

徳島県南部及び高知県東部地域は、自然豊かな観光名所のほかに、四国霊場の札所もあり、多くの観光客が訪れる地域である。徳島県と高知県では、同地域において線路と道路の両方が走行できる「DMV」（デュアル・モード・ビークル※）の導入を進めている。DMVは、シームレスな交通体系の構築を可能とするだけでなく、地域の新たな観光資源にもなり得るものとして期待されており、この導入による効果を徳島県南部から高知県東部の広範囲に広げるため、拠点施設周辺の魅力向上やアクセス性の向上を図ることで、DMVを軸とした広域的な観光ルートの形成や交流人口の増加を目指す。  
 (※鉄道、道路の2つのモードを持つ乗り物)



**計画期間**  
 平成30年度 ～ 平成34年度 （5年間）

**目標を定量化する主な指標**

- ・ 阿佐海岸鉄道阿佐東線の年間乗客数  
 44千人 (H28) → 55千人 (H34)
- ・ DMVを活用した観光ツアー年間観光客数  
 0人 (H28) → 2千人 (H32)

**主な事業**

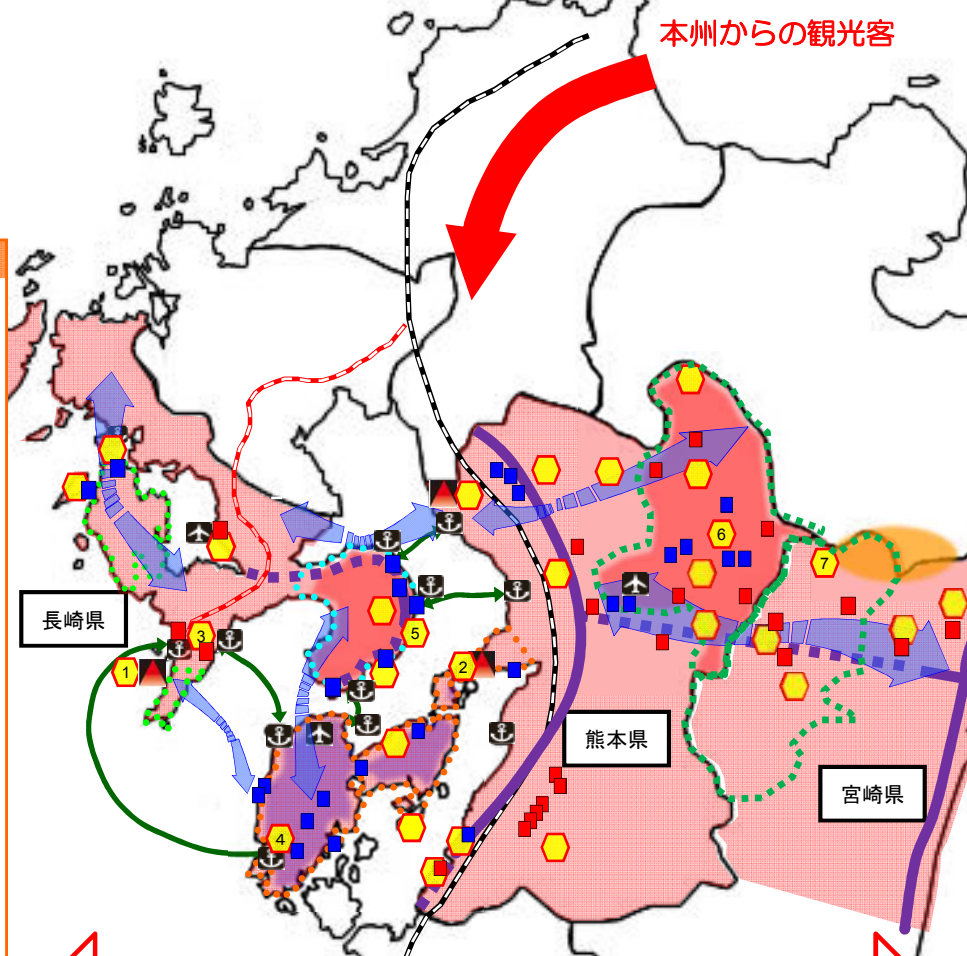
- ・ 観光地アクセス向上のための道路整備
- ・ 観光地アクセス快適性のための道路修繕



# 九州横軸三県における広域的な観光活性化

## 計画の概要

九州横軸三県（長崎県、熊本県、宮崎県）における豊富な観光資源や雄大な自然景観を最大限活用すべく、各地方機関や観光団体、民間企業では観光活性化に向けたルート設定等を実施している。また、九州新幹線西九州ルート、九州横断自動車道延岡線、南九州西回り自動車道などの段階的な開通と併せて既存の交通網と連携強化を図ることで、九州横軸三県の観光客の更なる増加が期待できる。これら活動と一体となって、九州横軸三県地域における観光拠点間のアクセスの強化、観光案内や観光PRなどを広域的に連携して整備することで各県間の交流が拡大し、観光客数を増大させ、観光産業の活性化を図る。



- 凡 例
- 基幹事業(通常)
  - 基幹事業(重点)
  - 拠点施設
  - ユネスコ世界ジオパーク
  - 日本ジオパーク
  - ユネスコエコパーク
  - 世界農業遺産
  - ▲ 世界遺産
  - 連携を促進する道路 (事業中を含む)
  - ↔ 主な航路
  - 新幹線ルート (赤は建設中)
  - ✈️ 空港・港湾拠点(旅客)
  - 西彼杵半島地域
  - 島原半島地域
  - 宇土天草地域

九州横軸三県が連携し、観光客数を増大

## 【計画期間 平成30年度～平成34年度】

1. 計画の目標
 

九州横軸三県間の拠点施設間のアクセス道路、観光案内及び観光PRなどを広域的に連携して整備することにより、観光客数を増大させ、観光の活性化や九州横軸三県間の交流の拡大を図る。
2. 目標を定量化する主な指標
 

■長崎県・熊本県・宮崎県の「観光客数」増加(万人)  
9,700万人(H28年) ⇒ 10,475万人(H34年度)
3. 主な事業
 

広域交通網と観光拠点のアクセス性を向上させる道路の改良及び港湾整備、広域観光PRなど

■世界遺産における連携

- 明治日本の産業革命遺産
  - 1 壱島(長崎県)
  - 2 三角西港・万田坑(熊本県)
- 長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産
  - 3 太浦天主堂(長崎県)
  - 4 崎津教会(熊本県)

■豊かな自然を生かした資源の連携

- ユネスコ世界ジオパーク、ユネスコエコパーク
  - 5 島原半島(長崎県)
  - 6 阿蘇(熊本県)
  - 7 祖母・傾・大崩山(宮崎県)

○日本ジオパーク : 天草(熊本県)  
○世界農業遺産 : 高千穂郷・椎葉山地域(宮崎県)、阿蘇地域(熊本県)

# 九州南部地域における広域観光活性化計画

## 計画の概要

高規格幹線道路（九州自動車道，東九州自動車道及び南九州西回り自動車道）の段階的な開通，九州新幹線（鹿児島ルート）の全線開業（H23.3），大型クルーズ船の寄港回数増加及び多彩な観光列車運行などを活かすため，主要幹線道路と既存交通網等との連携強化等にて，九州南部での圏域外からの観光宿泊者数及び観光入込み客数の増加を目指す。また，南九州の温暖な気候を活かしたスポーツ環境の整備等により圏域の活性化を図る。



### 【計画期間 平成30年度～平成34年度】

#### 1. 計画の目標

九州南部地域における，空港や港と拠点施設を結びアクセスルートを構築することで，周遊ルートの確保に努め，観光案内及び観光PRなどを手掛ける地元自治体，関係機関と連携した広域的観光活性化を目指す。

#### 2. 目標を定量化する主な指標

- 九州南部の「延べ宿泊者数」  
H28: 414.8万人 → H34: 436.9万人 (H34年度)
- 拠点施設への入込客数  
H28: 359.2万人 → H34: 379.1万人
- 宮崎県総合運動公園の利用者数  
H28: 136.0万人 → H34: 142.8万人

#### 3. 主な事業

- 広域交通網と観光拠点のアクセス性を向上させる道路整備
- 広域的な利用増進を目指し多様な利用者のニーズに応える都市公園施設整備

凡 例

- 主な基幹事業（通常）
- 基幹事業（重点）
- 拠点施設
- 主要幹線道路
- ✈️ 空港・港湾拠点（旅客）
- 九州新幹線
- 鉄道
- ➡️ クルーズ船航路

妙見温泉



霧島ジオパーク



綾ユネスコエコパーク



クルーズ船



宮崎県総合運動公園

